

決算 深読み

高総利益率が改善した。13年2月期の連結純利益は前期比12%増の375億円と14期連続の最高益更新を見込む。12年3~5月期決算でニトリHDの業績の底堅さを示したが、4%増

ニトリホールディングスが27日発表した2012年3~5月期連結決算は、純利益が前年同期比26%増の98億円だった。客単価の上昇や新店出店効果に加え、円高が利益押し上げ要因となり売上

ニトリHD、業績底堅く

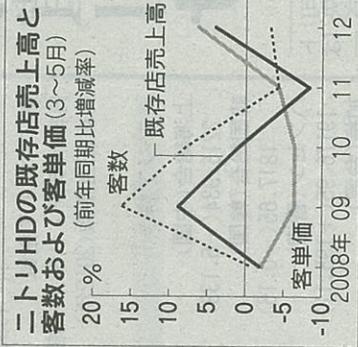
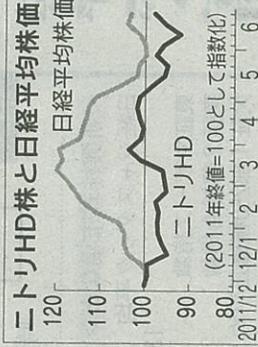
3~5月 純利益26%増98億円

となった既存店売上高の堅調さだ。内訳をみると、客数が2.2%減った一方で、客単価が6.3%増と大きく伸びた。

単価上昇を狙って部署全体の模倣替えを提案する

「トータルコアマネージメント」戦略を強化し、商品のシリーズ数を5割増の18にして顧客の多様化に対応した。「快適な寝心地の寝具など自社企画の高機能商品の販売が好調だった」（似鳥昭雄社長）ことも寄与した。

に増加、87億円分の増収効果があった。同社は家具などの商品の約8割（金額ベース）がプライベートブランド（PB＝自主企画）商品。中国の協力工場のほか、トナムなどに自社工場を



客単価上昇、円高も寄与

連結売上高は前年同期比11%増の943億円だった。新規出店も増やし、12年5月末の店舗数は1年前に比べて8%増の272店

保有、中国の人的費上昇などにも対応しやすい点が強みだ。経常利益は89%増の187億円となった。円高が寄与し売上高総利益率が55.1%と1.2ポイント改善。同社は海外で家具などを製造、輸入しており円高が追い風になる。1がにつき1円の円高で年間10億円強の営業利益押し上げ効果がある。

同社は今期の為替しりしを83円と想定。すでに80円よりも円高の水準で為替予約を実施、3~5月期は円高効果で粗利率を1.7ポイント押し上げた。原材料費の上昇などが、5%の粗利率の押し下

げ要因となったが、円高で吸収した格好だ。

ただ、株価は低水準で推移、11年末比では2%安と日経平均株価（3%高）と比べても軟調だ。市場関係者は「5月以降の既存店売上高が前年同月を割り込んでいる点が懸念」と指摘する。

同社は「新店に顧客が流れたことなどが原因で想定の範囲」（児玉直樹常務執行役員）と説明するが、積極的な出店が続けば自社店舗間の顧客の奪い合いは一段と激しくなる。客単価の伸びを中長期的に維持できるかが、市場の評価見直しのカギとなりそうだ。